

三歲圖會
 雅講釋
 京傳作



通油町

鶴屋板

特別
 遠
 871



門へ遠 13
 辨 871
 卷

明治三十三年十一月五日

坪内雄之助公贈

序

和漢三才圖會。普天地の間は萬物と載て。初學に
 便し書かれも。全部十二卷有て。兒女の閱し難し。
 今此草紙紙終よ十五紙凡て天地萬物の實言を安説と
 訂し。其實と示と。但し童蒙に謬りおるえざる紙。
 繪ふあり。實説以辞書と寸三歳の童子も解
 安く。讀よ倦ざるを以て三歳圖會雅講釋と号す
 尔云

寛政九年丁巳限月

山東京傳誌



月と久きみかろふよの月すんふ
 月と久きみかろふよの月すんふ
 月と久きみかろふよの月すんふ



ナイト
 月の宮
 月の宮

天也

天の宮のありは地とていふ
 天の宮のありは地とていふ
 天の宮のありは地とていふ

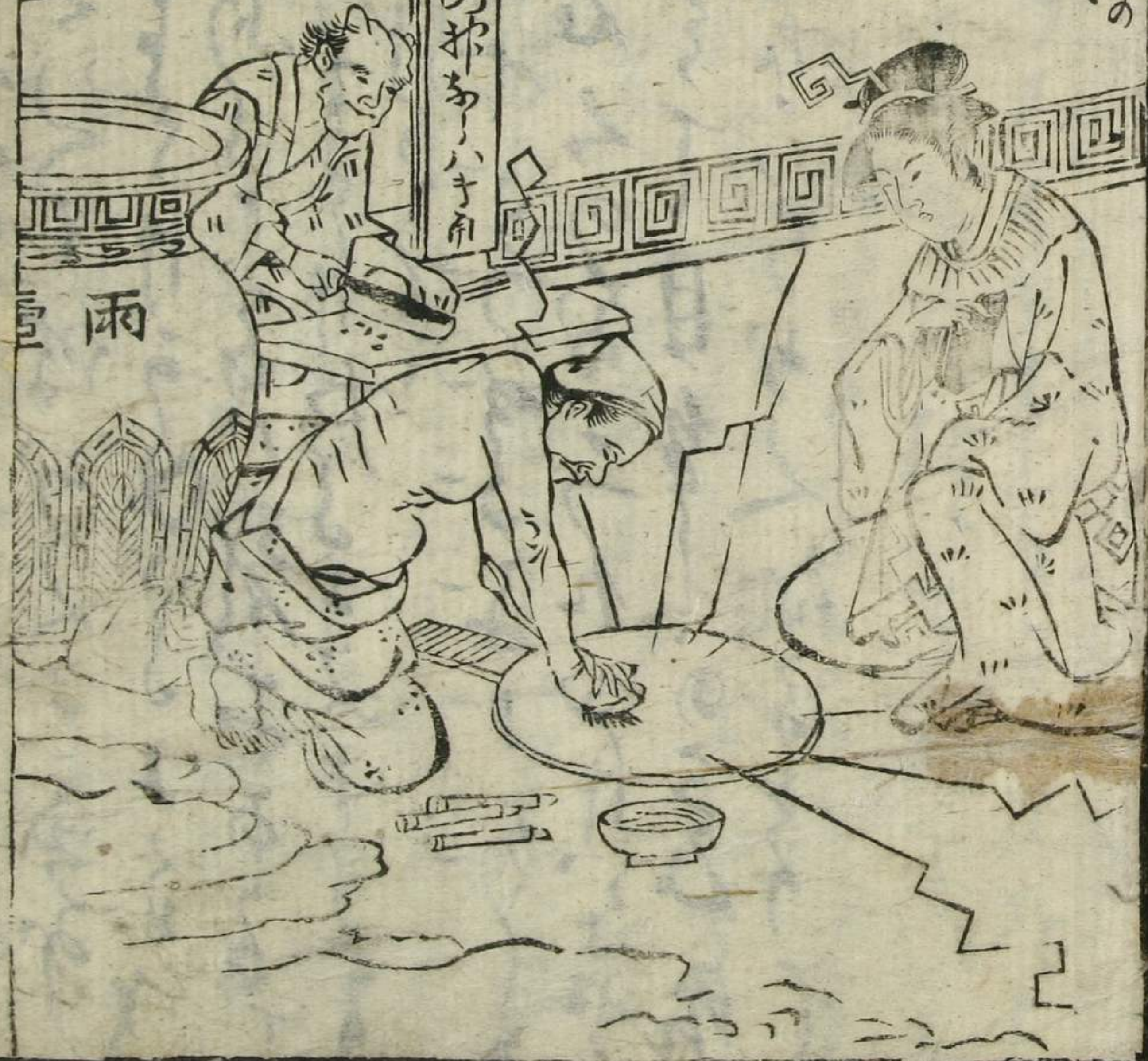


天の宮のありは地とていふ
 天の宮のありは地とていふ
 天の宮のありは地とていふ



小町雲之通

とあるは、老人ひやうのけの
 ありと、いかに、いかに、いかに
 けいあり
 ○雨と、いかに、いかに、いかに
 地、いかに、いかに、いかに
 わめ、いかに、いかに、いかに
 ○雨と、いかに、いかに、いかに
 老人、いかに、いかに、いかに
 あり、いかに、いかに、いかに
 ○の、いかに、いかに、いかに
 いかに、いかに、いかに、いかに
 いかに、いかに、いかに、いかに



雨

か、いかに、いかに、いかに、いかに
 せ、いかに、いかに、いかに、いかに
 り、いかに、いかに、いかに、いかに
 り、いかに、いかに、いかに、いかに
 て、いかに、いかに、いかに、いかに
 知、いかに、いかに、いかに、いかに
 その、いかに、いかに、いかに、いかに
 あ、いかに、いかに、いかに、いかに
 い、いかに、いかに、いかに、いかに
 ら、いかに、いかに、いかに、いかに
 さ、いかに、いかに、いかに、いかに
 ゆ、いかに、いかに、いかに、いかに
 ら、いかに、いかに、いかに、いかに
 い、いかに、いかに、いかに、いかに
 大、いかに、いかに、いかに、いかに
 い、いかに、いかに、いかに、いかに
 わ、いかに、いかに、いかに、いかに
 の、いかに、いかに、いかに、いかに
 け、いかに、いかに、いかに、いかに



大ゆせつりひらちよりおこりしあき
 のゆめやうるまきゆめゆめい
 ちりさういおけてゆめいあ
 うもも又そのさるのよと一さうい
 たりとてまうて

ふかあのみま
 せふふふふ
 づまづま
 づまづま
 づまづま

づまづま
 づまづま
 づまづま
 づまづま
 づまづま



おまのいふたが おすさう
 さういふたが おすさう
 さういふたが おすさう

時候

東車...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

...
 ...
 ...



七月七日夕... 天の川... 織姫... 彦星... 七夕の物語... 織姫は天の川のほとりにて... 彦星は天の川のほとりにて... 七夕の物語... 織姫は天の川のほとりにて... 彦星は天の川のほとりにて...



あまのこが... ちか... ちか...

九月九日... 菊花... 九月九日... 菊花... 九月九日... 菊花...



人倫... 人倫... 人倫...

人倫... 人倫... 人倫... 人倫... 人倫... 人倫... 人倫... 人倫... 人倫... 人倫...



うすの... かつ... あり...

いそ... さい... の...

唯一心外無別法



人国のか
どの内カ
木やうえ
あつちの
すかちら
ありんか
かんのけ
あいの
ていけい
りてい
ちてい

あつちの
すかちら
ありんか
かんのけ
あいの
ていけい
りてい
ちてい
あつちの
すかちら
ありんか
かんのけ
あいの
ていけい
りてい
ちてい

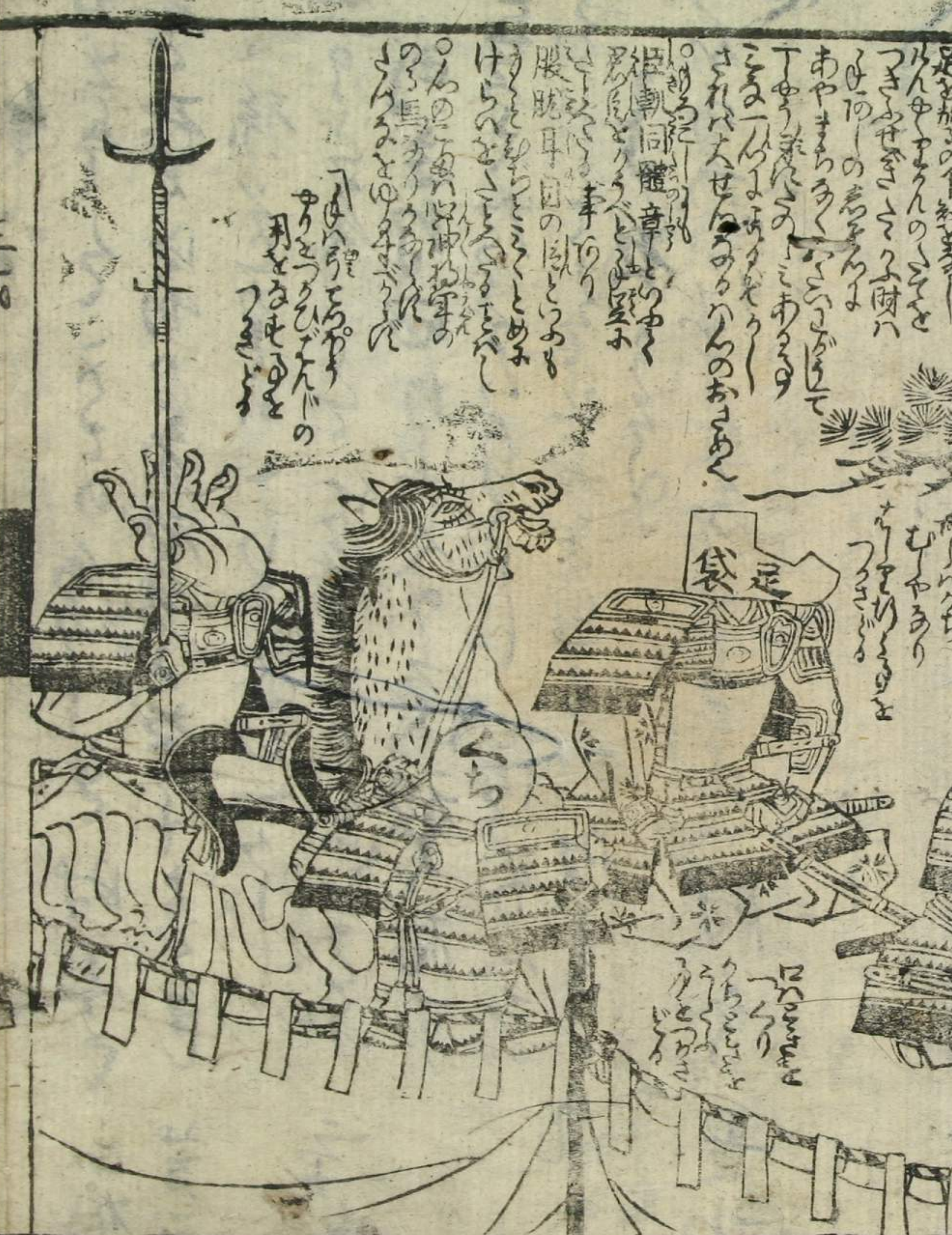


○耳のまへ

ていけい
りてい
ちてい
あつちの
すかちら
ありんか
かんのけ
あいの
ていけい
りてい
ちてい

あつちの
すかちら
ありんか
かんのけ
あいの
ていけい
りてい
ちてい
あつちの
すかちら
ありんか
かんのけ
あいの
ていけい
りてい
ちてい

あつちの
すかちら
ありんか
かんのけ
あいの
ていけい
りてい
ちてい



あつちの
すかちら
ありんか
かんのけ
あいの
ていけい
りてい
ちてい

あつちの
すかちら
ありんか
かんのけ
あいの
ていけい
りてい
ちてい

あつちの
すかちら
ありんか
かんのけ
あいの
ていけい
りてい
ちてい

人の心は... 人の心は... 人の心は...
人の心は... 人の心は... 人の心は...
人の心は... 人の心は... 人の心は...

人の心は... 人の心は... 人の心は...
人の心は... 人の心は... 人の心は...
人の心は... 人の心は... 人の心は...



鬼頭楊柳
心欲...

南女...

魂 魄
人の心は... 人の心は... 人の心は...
人の心は... 人の心は... 人の心は...



木火土金水
人の心は... 人の心は... 人の心は...
人の心は... 人の心は... 人の心は...

人のうまうたふとてんか
 ひろちあるとひろちいり
 火まきまきすゆかこり
 うぬちやうちて男のまじ
 いしあふんあて女の
 りこちありのんちやう
 げとてあてまはま
 わんちやうくんとてま
 ちんすすのひろちや
 りつちのしちりつち
 ちれがてし人のしちり
 おまこのまももま
 ちんちやうまもま
 うまればこれま
 うまればこれま
 これまのまのま
 うまればこれま
 うまればこれま
 うまればこれま



ちんすすのひろちや
 りつちのしちりつち
 ちれがてし人のしちり
 おまこのまももま
 ちんちやうまもま
 うまればこれま
 うまればこれま
 これまのまのま
 うまればこれま
 うまればこれま
 うまればこれま

「氣」
 ちんすすのひろちや
 りつちのしちりつち
 ちれがてし人のしちり
 おまこのまももま
 ちんちやうまもま
 うまればこれま
 うまればこれま
 これまのまのま
 うまればこれま
 うまればこれま
 うまればこれま



御座い... ともたりの
本草... 徳山...
ついでとあるに...
その...
あつて...
くもす...
すれ...
物色...
ます...
り...
も...
う...
その...
か...
あ...
か...



らむゆらあり

これよりこのまらさか天の
かえりよりてやありあり
すしむちの中のとらふに
地の中よりかてあなあり
いんやうりきすすのそ
いんちよりあふがゆい
すすきを雷木といひ
是れぞちせ
雷電ぞあ
これぞ
人あ
すす
すりこま
おこり
さうなち
女すあり
あらあり
いんやう
いのさ
このめい
いんやう
いんやう
いんやう
いんやう
いんやう
いんやう



これよりこのまらさか天の
かえりよりてやありあり
すしむちの中のとらふに
地の中よりかてあなあり
いんやうりきすすのそ
いんちよりあふがゆい
すすきを雷木といひ
是れぞちせ
雷電ぞあ
これぞ
人あ
すす
すりこま
おこり
さうなち
女すあり
あらあり
いんやう
いのさ
このめい
いんやう
いんやう
いんやう
いんやう
いんやう
いんやう



すてはあふれあはれまはるけ
 んふふふふふふふふふふふ
 けさあふれあはれまはるけ
 んふふふふふふふふふふふ
 んふふふふふふふふふふふ
 けさあふれあはれまはるけ
 んふふふふふふふふふふふ
 んふふふふふふふふふふふ
 けさあふれあはれまはるけ
 んふふふふふふふふふふふ



ささげひげのぬら
 ちやんかき
 んふふふふふふ
 けさあふれあはれまはるけ
 んふふふふふふ
 けさあふれあはれまはるけ
 んふふふふふふ
 けさあふれあはれまはるけ
 んふふふふふふ
 けさあふれあはれまはるけ
 んふふふふふふ

それんむらむらむらむらむら
 んふふふふふふふふふふふ
 んふふふふふふふふふふふ
 んふふふふふふふふふふふ
 んふふふふふふふふふふふ
 んふふふふふふふふふふふ
 んふふふふふふふふふふふ
 んふふふふふふふふふふふ
 んふふふふふふふふふふふ
 んふふふふふふふふふふふ



三言語 淮南子の小言多あり
瀬泰ハ口小死すといふこと
明心堂と小言多あり
半白の世はあやまち
その世のそと
口小死すといふこと
いすゝいふこと多あり
つれづれと歯をむしり
らふこと

この世の外
人の心はむしり
あはれをもちあはれ
あはれをもちあはれ

手紙の果
めし
むし
むし



京傳作

おれい
おれい
おれい
おれい
おれい

京傳店にうし入るい
別してあつはさむらうい
あはれく知事仕外れあ
あはれ

三五

